



## 令和4年12月1日(木) 第16回のしろ市民まちづくりフォーラム開催編

のしろ市民まちづくりフォーラムは今年度で16回目を迎え、能代河川国道事務所内大会議室での一般聴講とWEBを活用した配信での開催となりました。

今回は、木材利用のモデル地区としての新たな可能性や、秋田・能代の道づくり、まちづくりで描くべき未来像を北海道の事例や専門家の知見に学びながら、これから何が必要なのかを考えました。

基調講演第1部では、北海道大学大学院農学研究院の佐々木貴信教授より「北海道の木材を活かす人たち」と題し、北海道における木材利用の取り組みとして木質厚板パネルの直交集成板「CLT」の活用事例や木材活用を通じた行政のまちづくり、森林管理局や企業との若者たちの繋がりについてご紹介いただきました。

第2部では、国土交通省北海道開発局 道路計画課の坂憲浩課長より「北海道における日本風景街道の取り組みについて」と題し、北海道の自然景観を活かした地域発案の取り組み事例等をご紹介いただきました。

第1部では、木材活用を通じた官民一体の繋がりを、第2部では、地域が発案し行政を動かす事例や、地域間のネットワーク構築、また、そういった地域へ積極的に関与している北海道開発局の姿勢について多くを学ぶ機会となりました。

話題提供では、能代河川国道事務所 平岡弘志所長より現在取り組んでいる木材活用を踏まえた電線共同溝事業の検討状況についてご紹介いただきました。ディスカッションでは、人と人の繋がりの重要性をメインとした議論がなされ、行政側として「どうやったらできるのか」また、民と官ではなく、あくまで個々の繋がりとして出来ることを考えることの重要性を改めて認識しました。

第16回のしろ市民まちづくりフォーラムでは、一般聴講者20名、WEB聴講者は合計99名参加いただき、有意義なものとなりました。今回のフォーラムを通して得たものを形に出来るよう個人としても積極的に活動参加していきたいと思っております。

文：長崎 勇



能代河川国道事務所「大会議室」会場



北海道大学大学院農学研究院教授  
佐々木貴信氏



国土交通省北海道開発局道路計画課課長  
坂 憲浩氏



ディスカッションの様子